

話題 ※ 小布施町議会議員とまちづくり委員会の交流 ※



地域が一貫して子どもたちの育ちを支援し責任を持つ仕組みづくり

共育を考える部会長 元田和行

共育を考える部会(共育部会)は、コミニティスクールの提言を終え、昨年度より次のステージ「地域が一貫して子どもたちの育ちを支援し責任を持つ仕組みづくり」を目指して、様々な可能性を探ってきています。例えば子ども園の教育課程等の検討、幼年期の体づくり、脳科学から見た家庭教育の充実、一貫した子ども支援のための役場各事業の連携、子どもと年配者との交流などです。また、すぐにできることとして「子どものつばやき」コンクールを実施し、子どもの良さを地域全体で認めて

いく雰囲気づくりを行いたいと思います。秋には「第5回おぶせ未来共育会議」を開催予定です。講師や内容はこれから検討していきますが、多くの町民、地域の皆様と「共育」について考えていく機会としたいと思っています。

去る2月10日(水)、「町会議員の皆様とまちづくり委員とによる意見交換会」が開催されました。午後6時半に始まり懇親会を含めて懇談会は4時間近くに及びました。

初めての試みでありましたので、開始直後こそいささかの固さがうかがえましたが、双方ともすぐに打ち解け大変有意義な会合となりました。

立場の違いこそありますが、小布施町の豊かな発展を願う強い気持ちを抱く町会議員の皆様とまちづくり委員とが共有する問題点を提起し合うにふさわしい機会でありました。再会を約しての4時間近くは瞬く間に終了時刻を迎えていました。

当初は2年目を迎えて、いよいよ具体的なテーマのもとに活動して行こうとしています。手始めに移住希望者のために、住居を確保・用意することを具体化したいと思っています。このほど開設された移住相談センターや、地域おこし協力隊、須高広域シルバー人材センターなどと連携し、空き家バンクの拡充・整備を目指します。このためにはその素材である対象物件を抽出することが必要であり、町民・自治会の協力が重要です。今後種々の調

査がなされると思いますが、その折にはできるだけだけの情報提供と、忌憚のないご意見をお願いいたします。また、移住者の要望を知り対処する必要があり、転入者・転出者に対して独自のアンケートの実施を検討中です。ほかに、小布施町の環境・社会状況などを一覧にして移住希望者に案内するため、安全を考える部会で進めている「小布施ある・ない」の作成に協力して行きます。

定住促進に向けて具体的な動きを

定住促進を考える部会長 櫻井敏夫

定住部会 視察れば



小布施町への移住定住を支援する移住相談センターが松村にオープンしました。

この日、定住促進を考える部会では早速、運営者の中田さんと開設の事情やこれからの方針について懇談しました。

全体会スナップ



安全で安心して住めるまちを目指して

安全を考える部会長 塩尻利一

新年度、安全部会の部会長になりました塩尻です。よろしくお願ひします。

今年のテーマはこれからですが、安全・安心のまちづくりのため、人とのつながりを大事にして、いざというときに何ができるか考え、部会のみならず一緒に取り組んでいきたいと

思います。

3・11・栄村・白馬村、いろいろな災害が起きています、自分でも、その時には多分何もできないと思います。かつて松代群発地震の時、何もできずに外に出てしまいました。足下に貴重品が有りながら、冷静にならないといけないと思いました。

町内を見回すと、山崩れ、松川・千曲川等の水害などが考えられます、さらに日本は、やっかいな原発がとり巻いています。福島事故は、5年経っても何も解決していません。未だに汚染物が貯まっています。先ずは、自分たちに何が出来るかを部会で考え、講演会・防災の体験・見学など行っていきます。今出来る事はなに？今すぐ災害が起きておかしくないかも？

今年度の活動方針について

福祉を考える部会長 花村一三

福祉部会は昨年度から新しいメンバーを迎え新たな意見や考え方も加わり、部会長の私が頼りない部分を大きく支えて頂いています。今年度もさらに1人でも多くのメンバーに加わって頂ければと期待しております。

さて福祉部会の今年度の活動については皆様もご存じかと思いますが、町民の方々にアンケート調査を実施しています。少子化でお子さんが減少している中で、“認定こども園・幼稚園”の制度がスタートしました。また高齢者人口の割合が確実に増加している中で、2025年問題を解決するがために国も動き始めています。これにより我々を取り巻く福祉や医療の環境は大きく様変わりし始めています。そのような中で生活を継続するには、様々な「不安や不満」「考えや希望」をお持ちだと思います。そんな思いを行政に伝えたり、福祉部会として方向性を示したり、少しでも改善に導いていければと活動したいと思います。アンケートは3月末でひとまず締め切らせていただきました。皆様のご協力ありがとうございました。締め切り後であっても、住民の皆様からのご意見、ご提案を随時お聞きしたく、引き続きましての皆様からの声をお待ちしております。

想いは一つ、会って、話して良い感動

交流を考える部会長 坂原広重

昨年度の反省を踏まえ、今年度も『町民の交流の場』としての位置づけで、各種交流事業を計画して居ります。

前年度部会としての最大事業は中島千波館中庭での『ピア・イベント』でした。その収益金の一部を、東日本大震災復興に役立てて頂くとの思いで、まずは5年間の期間限定で実施、昨年最終の年を迎え、終了宣言致しました。その後、終

了するのを惜しむ声を多数頂き、部会として数か月間議論を重ね、最終結論は、継続しました。その背景には、5年経過しても復興はまだまだ道半ば、支援の思いを伝えたい、さらには、定着した交流の場を繋げたい、等々が有りました。従いまして、今年度は、新生『ピア・イベント』とし、内容を具体化した後、告知致します。加えて、藤岡牧夫美

術館との共催の夏のスイカ割り、冬の餅つき大会とお絵かき教室。そして、来年2月には中国餃子を主とした多文化交流等も計画しております。交流を重ね、もっと住み良い小布施にしましょう。

今年2月21日には交流部会主催による恒例となった「水餃子」を味わう多文化交流が開催されました。今年は水餃子に加えてタイ料理の「グリーンカレー」がメニューに登場し、小中学生を含め30名近い参加者がにぎやかなひと時を愉しみました。

水餃子を味わおう

